

海外では34例が成功!

日本初「子宮移植」へ!

移植医・木須伊織氏と患者が独占告白

他者から移植された子宮で妊娠する。そんな手術が3年以内に日本で行われるかもしれない――



海外では続々と手術例が増えている。写真はチェコでの移植手術後の会見

ずっと妊娠は諦めていました。70代の母も私に子宮をくねると……

「子宮移植手術が日本で行えるようになれば、疾患などで子宮を持たない、もしくは失った女性でも、妊娠、出産することを期待できます」
そう語るのは、立川病院産婦人科医長の木須伊織医師だ。他人の子宮を移植して出産するなど、まるで夢物語だが、じつは現実的な話だという。「すでに海外では成功例もあります。基礎研究の分野で世界に引けを取らない日本では、臨床可能な段階です」
木須医師の言葉に、希望を抱くのは「ロキタンスキーの会」を運営する1人、河村容子さん（30代後半・仮名）だ。「私が向き合っているロキタンスキー症候群は、生まれつき子宮がない疾患です。これは4千〜5千人に1人の割合で発症するといわれていますので、毎年、100〜120人の患者が誕生している計算になります」

同会では患者本人やその家族をあわせた65人が登録しているが、移植に対して前向きな意見が出てきているという。これまで高額な費用を支払って、海外で代理出産の道を選択する人もいた。「でも、子宮移植は、自分で産むことができるのが、大きな違いです」
出産が不可能であっても、やはり子供を産みたい気持ちは強く持っている。
河村さんも、自身の体験を振り返ってくれた。「わりと成長が早いほうだったのに生理が来なかつたんです。それで中1のとき、心配した母と一緒に病院に行きました」
「子宮の発育不全の可能性」と診断されましたが、医師は母に「結婚は難しいから、しっかりと勉強させるか、芸術の道で独り立ちさせなさい」と言って、詳しい病名などは私

25. ナスの揚げびたし

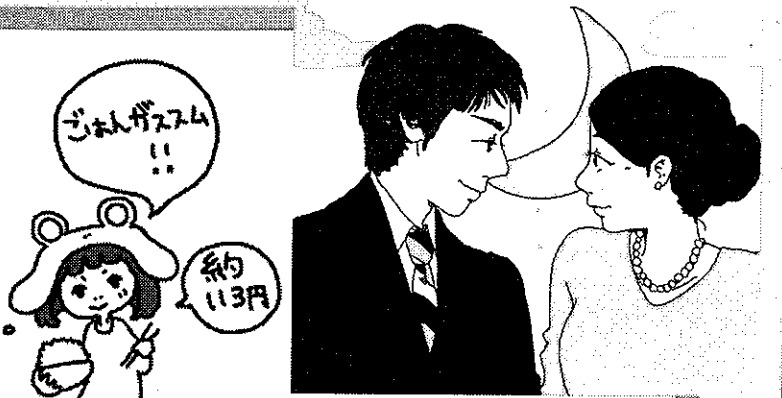
① ナス2〜3本を $\frac{1}{4}$ 〜 $\frac{1}{6}$ くらいにカットし、火が通う様に切り込みを入れる。
(切り落とす直前までの切り込みを斜めに入れる)

② アクを抜くために水に10分ほどつけておく。

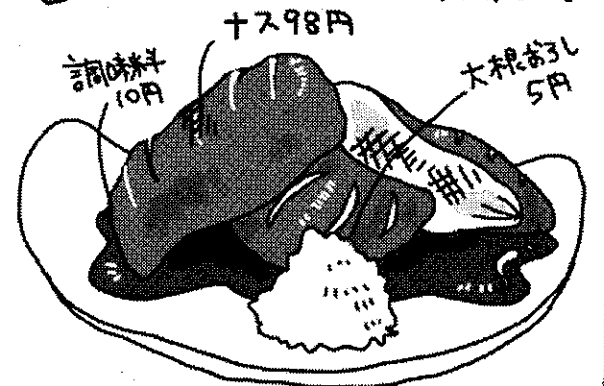
③ ②の水気を取り、多めのサラダ油をひいたフライパンで火あめる。

④ 容器の半分くらいまでめんつゆを入れ、③を冷めないうちに投入。
そこへごま油を2〜3滴。

ポイント 「野菜は旬に限ります。安くて栄養価も高いので、いまが作りどき。食わず嫌いの友人がナス好きになったくらい影響力のあるレシピです。ナスに切り込みを入れると、早く揚がるし、味がしみこみ口の中でうま味がジュワ〜」



⑤ 1時間ほど冷蔵庫で寝かせて完成!
大根おろしをかけるとより美味しい!
ナス98円



25. 肉じゃがならぬツナじゃが

① じゃがいも2個、人参 $\frac{1}{2}$ 本を乱切りにする。
② じゃがいもは水に10分ほどつけてアクを抜く。

③ ①の人参と②をジロコンステーキで炒める。

④ ③を④に入れ、アクを取りつつ煮る。

⑤ 良い感じに臭がくったりしたところで火を止め、油を軽くこしたツナ缶を投入。

⑥ やさしく混ぜて仕上げにネギを散らす。

① じゃがいも2個、人参 $\frac{1}{2}$ 本を乱切りにする。
② じゃがいもは水に10分ほどつけてアクを抜く。

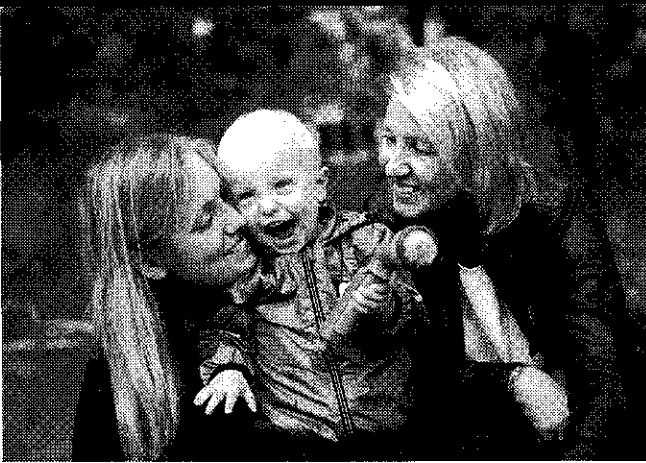
③ ①の人参と②をジロコンステーキで炒める。

④ 玉ネギ $\frac{1}{2}$ 個をザクザクにし、金器で炒め、めんつゆとみりんを1:1の割合で加える。

⑤ 良い感じに臭がくったりしたところで火を止め、油を軽くこしたツナ缶を投入。

⑥ やさしく混ぜて仕上げにネギを散らす。

ポイント 「私たち夫婦そろって大好物! ツナはオイル漬け缶を選ぶと、お肉入りよりおいしいです! 外食続きで家庭の味が恋しいとき、うちにあるもので、すぐに作れる絶品料理なので、お2人もハマること間違いなし!」



母子子宮移植で生まれた世界最初の子。母（写真左）と息子、祖母（写真右）の子宮で生まれたことになる

子宮を移植して、免疫抑制剤の量を減らしながら1年ほど観察。妊娠できるタイミングを見て、移植前に凍結保存した、体外受精による夫婦の受精卵を、子宮に移す。帝王切開で出産となるが、それがゴールとはならない。「免疫抑制剤を使い続けると体の負担やリスクがあるため、目標である出産を達成した後、子宮を摘出することになりそうです」

費用はまだ不明だ。研究段階のため、研究費で全額負担半額を研究費でまかなう、全額患者負担などさまざまケースが想定される。移植を求める声がある一方で、命の危険のない体にメスを入れること、提供者の負担が大きいことから、学会など

「5年ほど前に子宮移植を研究するプロジェクトチームが生まれ、私はその倫理委員会で見学を求められました。第一印象では、選択肢の1つになりえるとは思いませんでした。ところが出産までの経緯を詳しく聞くと、レシビエントの負担は想像以上に大きく、妊娠中も管理入院が必要にな

ある患者の切なる思いだった。「生理が私の人生において一回だけでも体験できるのなら、生まれてよかった」と思

「子宮移植は、何らかの事情で母親になれない女性たちにとって、母親になれる選択肢の1つであると考えられますが、移植をするという行為は、体に何らかの影響を与える懸念もあり、慎重な議論が必要です」

また、代理母出産についての議論や、法律化された養子縁組あつせんの取り組みの強化を進めることで、母親になれる多様な選択肢を模索していきたく考えています」

子宮を生着させ、免疫抑制剤の量を減らしながら1年ほど観察。妊娠できるタイミングを見て、移植前に凍結保存した、体外受精による夫婦の受精卵を、子宮に移す。帝王切開で出産となるが、それがゴールとはならない。「免疫抑制剤を使い続けると体の負担やリスクがあるため、目標である出産を達成した後、子宮を摘出することになりそうです」

「5年ほど前に子宮移植を研究するプロジェクトチームが生まれ、私はその倫理委員会で見学を求められました。第一印象では、選択肢の1つになりえるとは思いませんでした。ところが出産までの経緯を詳しく聞くと、レシビエントの負担は想像以上に大きく、妊娠中も管理入院が必要にな

ある患者の切なる思いだった。「生理が私の人生において一回だけでも体験できるのなら、生まれてよかった」と思

「子宮移植は、何らかの事情で母親になれない女性たちにとって、母親になれる選択肢の1つであると考えられますが、移植をするという行為は、体に何らかの影響を与える懸念もあり、慎重な議論が必要です」

また、代理母出産についての議論や、法律化された養子縁組あつせんの取り組みの強化を進めることで、母親になれる多様な選択肢を模索していきたく考えています」

また、代理母出産についての議論や、法律化された養子縁組あつせんの取り組みの強化を進めることで、母親になれる多様な選択肢を模索していきたく考えています」



50歳で第1子を出産し、不妊のつらさを知る野田聖子総務大臣

「病名を聞かされたときは頭が真っ白になりました。それから10年くらいは「子宮」という言葉を聞きすぎるだけで手が震えたり、気分が悪くなりました。そして、きつと自分は結婚したら、しがらみのある地域には住めないだろうとも。『なんで河村さんには子どもがで

「子宮を摘出する方が多いです」木須医師は、ある子宮頸がん患者を手術したときのことを振り返る。「術前検査では、子宮の一部

「まず想定されるのは、ロキタンスキー症候群の女性です。移植には免疫抑制剤を使用するので、子宮頸がんが子宮摘出した患者は、がんの再発リスクが高くなりますので、最初は対象外となりそうです。しかしスウェーデンでは、元

「子宮移植は、何らかの事情で母親になれない女性たちにとって、母親になれる選択肢の1つであると考えられますが、移植をするという行為は、体に何らかの影響を与える懸念もあり、慎重な議論が必要です」

また、代理母出産についての議論や、法律化された養子縁組あつせんの取り組みの強化を進めることで、母親になれる多様な選択肢を模索していきたく考えています」

「病名を聞かされたときは頭が真っ白になりました。それから10年くらいは「子宮」という言葉を聞きすぎるだけで手が震えたり、気分が悪くなりました。そして、きつと自分は結婚したら、しがらみのある地域には住めないだろうとも。『なんで河村さんには子どもがで

「子宮を摘出する方が多いです」木須医師は、ある子宮頸がん患者を手術したときのことを振り返る。「術前検査では、子宮の一部

「まず想定されるのは、ロキタンスキー症候群の女性です。移植には免疫抑制剤を使用するので、子宮頸がんが子宮摘出した患者は、がんの再発リスクが高くなりますので、最初は対象外となりそうです。しかしスウェーデンでは、元

「子宮移植は、何らかの事情で母親になれない女性たちにとって、母親になれる選択肢の1つであると考えられますが、移植をするという行為は、体に何らかの影響を与える懸念もあり、慎重な議論が必要です」

また、代理母出産についての議論や、法律化された養子縁組あつせんの取り組みの強化を進めることで、母親になれる多様な選択肢を模索していきたく考えています」

また、代理母出産についての議論や、法律化された養子縁組あつせんの取り組みの強化を進めることで、母親になれる多様な選択肢を模索していきたく考えています」

「病名を聞かされたときは頭が真っ白になりました。それから10年くらいは「子宮」という言葉を聞きすぎるだけで手が震えたり、気分が悪くなりました。そして、きつと自分は結婚したら、しがらみのある地域には住めないだろうとも。『なんで河村さんには子どもがで

「子宮を摘出する方が多いです」木須医師は、ある子宮頸がん患者を手術したときのことを振り返る。「術前検査では、子宮の一部

「まず想定されるのは、ロキタンスキー症候群の女性です。移植には免疫抑制剤を使用するので、子宮頸がんが子宮摘出した患者は、がんの再発リスクが高くなりますので、最初は対象外となりそうです。しかしスウェーデンでは、元

「子宮移植は、何らかの事情で母親になれない女性たちにとって、母親になれる選択肢の1つであると考えられますが、移植をするという行為は、体に何らかの影響を与える懸念もあり、慎重な議論が必要です」

また、代理母出産についての議論や、法律化された養子縁組あつせんの取り組みの強化を進めることで、母親になれる多様な選択肢を模索していきたく考えています」

また、代理母出産についての議論や、法律化された養子縁組あつせんの取り組みの強化を進めることで、母親になれる多様な選択肢を模索していきたく考えています」

「病名を聞かされたときは頭が真っ白になりました。それから10年くらいは「子宮」という言葉を聞きすぎるだけで手が震えたり、気分が悪くなりました。そして、きつと自分は結婚したら、しがらみのある地域には住めないだろうとも。『なんで河村さんには子どもがで

「子宮を摘出する方が多いです」木須医師は、ある子宮頸がん患者を手術したときのことを振り返る。「術前検査では、子宮の一部

「まず想定されるのは、ロキタンスキー症候群の女性です。移植には免疫抑制剤を使用するので、子宮頸がんが子宮摘出した患者は、がんの再発リスクが高くなりますので、最初は対象外となりそうです。しかしスウェーデンでは、元

「子宮移植は、何らかの事情で母親になれない女性たちにとって、母親になれる選択肢の1つであると考えられますが、移植をするという行為は、体に何らかの影響を与える懸念もあり、慎重な議論が必要です」

また、代理母出産についての議論や、法律化された養子縁組あつせんの取り組みの強化を進めることで、母親になれる多様な選択肢を模索していきたく考えています」

また、代理母出産についての議論や、法律化された養子縁組あつせんの取り組みの強化を進めることで、母親になれる多様な選択肢を模索していきたく考えています」

1960年代～	各国で動物実験などの基礎研究が始まる
2000年	サウジアラビアで世界第1例目の手術。産後の大量出血で、子宮摘出した26歳女性に46歳女性の子宮が移植された。2回の生理が認められたが、3カ月後に子宮が壊死
2011年8月	トルコで行われた。ドナーは22歳の脳死患者で、移植の対象になったのは21歳のロキタンスキー症候群の女性。2013年に妊娠したが、初期流産した
2012年9月	スウェーデンで最初の子宮移植が行われる。ドナーは閉経後の母、移植の対象になったのは30代のロキタンスキー症候群の娘
2014年9月	スウェーデンで行われた35歳と61歳の友人間の移植で、世界で初めて移植後の子宮で妊娠、出産に至る
2014年12月	スウェーデンで子宮頸がんで子宮を摘出し、移植を受けた女性の妊娠、出産が報告された
2017年9月1日現在	世界で34例の子宮移植手術が報告されている

「子宮移植は、何らかの事情で母親になれない女性たちにとって、母親になれる選択肢の1つであると考えられますが、移植をするという行為は、体に何らかの影響を与える懸念もあり、慎重な議論が必要です」

また、代理母出産についての議論や、法律化された養子縁組あつせんの取り組みの強化を進めることで、母親になれる多様な選択肢を模索していきたく考えています」

また、代理母出産についての議論や、法律化された養子縁組あつせんの取り組みの強化を進めることで、母親になれる多様な選択肢を模索していきたく考えています」

「病名を聞かされたときは頭が真っ白になりました。それから10年くらいは「子宮」という言葉を聞きすぎるだけで手が震えたり、気分が悪くなりました。そして、きつと自分は結婚したら、しがらみのある地域には住めないだろうとも。『なんで河村さんには子どもがで

「子宮を摘出する方が多いです」木須医師は、ある子宮頸がん患者を手術したときのことを振り返る。「術前検査では、子宮の一部

「まず想定されるのは、ロキタンスキー症候群の女性です。移植には免疫抑制剤を使用するので、子宮頸がんが子宮摘出した患者は、がんの再発リスクが高くなりますので、最初は対象外となりそうです。しかしスウェーデンでは、元

「子宮移植は、何らかの事情で母親になれない女性たちにとって、母親になれる選択肢の1つであると考えられますが、移植をするという行為は、体に何らかの影響を与える懸念もあり、慎重な議論が必要です」

また、代理母出産についての議論や、法律化された養子縁組あつせんの取り組みの強化を進めることで、母親になれる多様な選択肢を模索していきたく考えています」

